



観桜会開催中の合浦公園（昭和戦前期・青森県史編さん資料）

合浦公園を会場とする行事や催事は、多くの人がとを公園へ呼び寄せる。合浦公園で開催された行事や催事には、どのようなものがあり、いつ頃から行われていたのだろうか。近代の合浦公園を会場とする行事の中で歴史が古いのは青森招魂祭（のちに東青連合招魂祭）である。招魂祭とは、行政と軍隊側が

戦病死者などを慰霊する公的な行事である。管見によれば、1886（明治19）年から合浦公園で招魂祭が
 年から合浦公園で招魂祭が
 年、
 1895（明治28）年、
 園創設者、水原衛作の実弟である柿崎巳十郎が、正
 式に青森町へ公園附属地を
 寄付し、公園の面積は拡大
 した。この結果、日清戦争
 後の慰霊の場とする新たな
 園で開催される重要な行事
 に位置づけられていたとい
 えよう。

招魂祭そのものは荘厳な
 儀式だが、余興の撃剣や相
 撲大会などは、大いに人び
 とを楽しませた。特に人気
 を集めたのは自転車競走で
 ある。自転車競走を観戦す
 るため、市内外から多くの
 人びとが公園へやってき
 た。当時、市街地
 から遠く、交通機
 関に恵まれなかつ
 た合浦公園だが、
 招魂祭の開催は、
 余興を通じて多く
 の人びとを惹き付
 けたのである。

合浦公園通史④
 市民憩いの空間へ
 中園 美穂

（青森県史編さん調査研究員）

招魂堂が新築された。

1896（明治29）年5

月の招魂祭に際し、陸軍が公園内に凱旋を記念した桜を数株植えた。これ以降、桜は戦争や皇室記念あるいは風致体裁のため、公園内に植樹されていった。

公園の敷地は、1901（明治34）年に、さらに拡大された。拡大の理由は、招魂祭を催すには公園が狭

けたのである。

1920（大正9）年5

月から、公園で青森観桜会が開催されると、いつそ公園へ多くの人びとが訪れるようになった。観桜会でも自転車競走をはじめ宝探しや芸者の手踊りなどの催事があり、露店やカフェなどが公園へ出店した。

こうした飲食や観覧など多彩な楽しみを満喫できる

観桜会の開催が、これまで不定期だった東青連合招魂祭の期日を、ある程度一定化させた。これ以降、毎年5月になると、観桜会のあとに招魂祭が挙行されたからである。このため桜花舞う5月の合浦公園は、近在郷から老若男女がやって来る、娯楽と慰霊の入り混じる空間と化した。

それに拍車をかけたのが交通機関の充実だった。1924（大正13）年には、公園の南側に浪打駅が開業した。前年に創業した篠原善次郎の乗合自動車路線は、青森駅と合浦公園前を結んだ。それを継承した市営バスも同様だった。

従来、市街地からの遠さと交通機関を問題にされてきた合浦公園は、5月の観桜会と招魂祭といった行事を通じ、さらにバスや鉄道によって、老若男女が集う市民の憩いの場となった。その光景は、水原衛作が描いた「偕楽園」（みんなが楽しむ公園）だったに違いない。